

岡山大学

大学院教育学研究科

OKAYAMA UNIVERSITY
Graduate School of Education

- 専門職学位課程【教職大学院】(1専攻)
 - ・ 教職実践専攻
- 修士課程(1専攻)
 - ・ 教育科学専攻



OKAYAMA
UNIVERSITY

世界への扉を開く



未来を拓く、
世界を拓く挑戦者へ！ 2027

2027年度 大学院案内



大学院教育学研究科長

西山 修

ごあいさつ

いま教育に、何が期待されているのでしょうか。その1つは、知識や技能の習得にとどまらず、一人ひとりが安心して学び、自分らしく成長し、他者と支え合って生きていくための「幸せの土台」を整えることと考えます。教育は、人と社会のwell-beingを支える基盤的な営みといえます。私たち岡山大学大学院教育学研究科は、学校リーダーおよび国際社会や地域社会に貢献できる高度な教育的実践力をもつ人材を育成し、well-beingの実現に貢献する大学院です。

本研究科は、教職実践専攻(専門職学位課程)と教育科学専攻(修士課程)から構成されています。

教職実践専攻は、専門職大学院としての教職大学院であり、学校教育に関する理論と実践を教授研究し、教育現場の課題を「理論との架橋・往還・融合」を通して高度にマネジメントし、遂行できる高度教育実践力を備えた教員を養成します。本専攻ではコース制を採らず、職能発達段階の異なる学部新卒学生と現職教員学生が「共に学び、共に高める」ことを大切にしています。全10教科に加え、特別支援教育、養護教育、教育行政、マネジメント等の専任教員体制の下、教科横断的に教育と学校経営を一体的・総合的に捉える視野を養い、地域で学び、地域に貢献できる人材育成を推進しています。私たちがめざす教員像は、課題を見だし、実践し、省察し、改善へとつなげる「アクション・リサーチャーとしての教師」です。

教育科学専攻は、教育を開拓的に広く捉え、その可能性を拓けることを追究する修士課程です。様々な教育課題に対応できる課題解決能力をもった実践的人材を育成します。教育は、公の性質を有する学校だけでなく、子どもたちの育ちの拠りどころとなる家庭や、生活実態に即して構成される社会においても営まれます。いま私たちには、従来の専門領域・分野の枠を越えた知識や経験を相互に関連づけ、理論的・実践的に分析すること、そこに内在する本質的な課題を見出して解決へ導くこと、そして、その成果を持続的に社会へ還元していくことが求められています。本専攻では、そのための生きて役立つ研究力と実践的な課題解決能力を身に付けます。

令和7年度より、教職実践専攻には、特別支援学校教諭専修免許状(5領域)の取得課程、教員免許状を有しない方を対象とした3年制プログラム、ならびに先取履修を活用した在学年限短縮プログラムが設けられました。また、教育科学専攻には、デジタル社会を教育領域で牽引する先駆者を養成する「教育データサイエンス学位プログラム」が新設されました。ますますパワーアップし、魅力が増した岡山大学大学院教育学研究科で、教育をテーマに共に学べることを楽しみにしています。

岡山大学大学院教育学研究科について

岡山大学大学院教育学研究科の目的と教育の基本的目標

岡山大学大学院 教育学研究科

教育学研究科は、教育の領域で、教育現場と社会、人間に関わる多様な事象を対象とした諸科学を探究することにより、学校リーダーおよび国際社会や地域社会に貢献できる高度な教育的実践力をもつ人材の育成を目的としています

専門職学位課程(教職大学院)

教職実践専攻(学生定員:45名)

修士課程

教育科学専攻(学生定員:37名)

教育の「未来」を拓く

〈アドミッション・ポリシー(入学者受入方針)〉

教職大学院は、学校教育に携わることへの強い使命感と熱意があり、学校教育の現状について幅広い関心を持つ人、学校教育の課題の解決に意欲を持ち、高度な教育実践力の獲得・向上を目指す人、また学校づくりの有力な一員になろうとしている人や地域・学校において指導的役割を果たすことを目指している現職教員を求めています。授与する学位は「教職修士(専門職)」です。

〈教育の基本的目標〉

教育の領域で、教育現場と社会、人間に関わる多様な事象を対象とした諸科学を探究することにより、学校リーダーおよび地域社会に貢献できる高度な教育的実践力を涵養するとともに、学生同士や教職員および学校・地域との連携・協働による対話や議論を通じて、個々人が豊かな教育者としての醸成ができるよう支援し、指導的役割を果たす能力と人格を備えた人材の育成を目的とした教育を行います。

〈特色〉

- ★ 10教科全ての専任教員を配置し、教科の専門的授業力育成機能をパワーアップ
- ★ 教育委員会・学校現場との強い連携
- ★ 岡山大学独自の実践力向上カリキュラム
- ★ 採用試験受験者への優遇措置
全国の自治体が、採用候補者名簿掲載期間の延長(岡山県・岡山市の場合は2年間延長)や次年度以降の一部試験免除・特別の選考など、特例的な措置を講じています。

〈トピックス〉

- ★ 特別支援学校教諭専修免許状(5領域:視覚障害者、聴覚障害者、知的障害者、肢体不自由者、病弱者)の取得が可能。
- ★ 先取履修を活用した在学年限短縮プログラムで、岡山大学教育学部卒業後1年で修了が可能。
- ★ 教員免許状を持たない方を対象とした3年制のプログラムで小学校教諭及び中学校教諭、養護教諭の専修免許状を取得することが可能。

よりよい教育実践に持続的に取り組む
アクション・リサーチャーとしての教師

全教科・全学校種における中核的教員



詳しくはこちら

教育で「世界」を拓く

〈アドミッション・ポリシー(入学者受入方針)〉

◎教育学学位プログラム

教育を通じて国際社会や地域社会の諸課題の解決に挑む実践力と、課題を見出し設定する探究力、他者を支援し仲間と協働するコミュニケーション力があり、さらに教育の可能性を広く深く追求するため、自らの専門領域はもちろん、関連する諸科学領域への興味・関心を持ち創造的に深めようと努力している人を求めています。授与する学位は「修士(教育学)」です。

◎教育データサイエンス学位プログラム

教育を通じて国際社会や地域社会の諸課題の解決に挑む実践力と、データ解析を通して俯瞰的に事象をとらえ課題を設定する探究力、他者を支援し仲間と協働するコミュニケーション力があり、さらに教育データサイエンスの可能性を広く深く追求するため、自らの専門領域はもちろん、関連する諸科学領域への興味・関心を持ち創造的に深めようと努力している人を求めています。授与する学位は「修士(教育データサイエンス)」です。

〈教育の基本的目標〉

◎教育学学位プログラム

学校・家庭・地域・職場等、人間が生活するあらゆる場における教育を対象とした諸科学を探究します。教育ならびに関連諸領域への深い理解を通して、学校リーダー及び国際社会や地域社会に貢献できる高度な教育実践力を涵養するとともに、学生同士や教職員及び学校・地域との連携・協働による対話や議論を通じて、柔軟な発想力と創造力を備えた実践者としての醸成ができるよう支援し、指導的役割を果たす能力と人格を備えた創造的実践者の養成を目的とした教育を行います。

◎教育データサイエンス学位プログラム

学校・家庭・地域・職場等、人間が生活するあらゆる場における教育を対象とした諸科学を探究します。教育とデータサイエンス、ならびに関連諸領域に関する深い専門的な知識をもとに、ICT・データサイエンス活用スキルを組み合わせた高度な課題解決能力を涵養します。あわせて、社会に存在する諸課題を主体的に捉え、その解決に向けてビッグデータを的確に解析・活用して有益な知見を導き出すことのできる転移可能な応用力を身に付け、デジタル技術の活用により様々な変革が想定されるこれからの時代を牽引する次世代エキスパート養成を目的とした教育を行います。

〈特色〉

- ★ PBL(Project-Based Learning)、インターンシップ等での課題解決型学習
- ★ 教育に関する事象を開拓的に広く捉え、視野を広げ学修・研究のできるカリキュラム
- ★ ビッグデータを利用しEBPM(Evidence Based Policy Making)を実践
- ★ 留学生受け入れ、IB教育、国際教育、企業等との連携を推進

新たな教育の価値を創出し
国内外の課題解決を牽引する教育の先駆者

企業、公務員、学校教員、大学教員、研究者、学校事務職員、
社会教育関連業種、JICA・NGO職員、起業など新たな事業



詳しくはこちら

専門職学位課程(教職大学院) 教職実践専攻

専門職学位課程(教職大学院)教職実践専攻の概要

<https://edu.okayama-u.ac.jp/~kyoujissen/>

↑ 詳しくはここをクリック

1. 教職大学院が目指すこと

教職大学院は、学校教育に関する理論と実践を教授研究し、教育現場の課題について、理論との架橋・往還・融合を通して高度にマネジメントし遂行できる総合的・実践的な力量(高度教育実践力)を備えた高度専門職業人としての教員を養成することを目的としています。



2. 養成しようとする教員像

教職大学院が養成する人材像は、「アクション・リサーチャーとしての教師」であり、教職生活全体を通じて継続的に高められていく職能発達方向性を踏まえたものです。

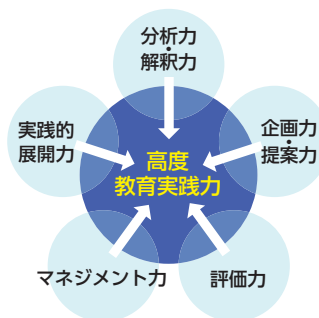
- 学部段階で教員としての基礎的・基本的な資質能力を修得した者が、さらに学習指導や学級経営、生徒指導などに関する高度で実践的な能力を身につけ、新しい授業を構想・展開し、提案することができる「初任期リーダー」として学校改善に資すること。
- 現場での一定の教職経験を有する現職教員が、若手教員を育成する能力、及び学年や学校・地域において学習指導や、学級経営・学年経営、生徒指導などに関する指導的役割を果たす能力を身につけ、「ミドルリーダー」として地域や学校改善に資すること。
- 現場での一定の教職経験を有する現職教員が、高い視座から、さまざまな教育事象を捉え直し、「学校リーダー」として指導的立場に立ち、新たな学校づくりや地域づくりに資すること。

◆ いま求められる資質・能力

職能発達の違いはありますが、「初任期リーダー」、「ミドルリーダー」、「学校リーダー」に求められる基礎・基本、資質・能力としては、以下のものを構想し、育成することを目指しています。

- ① **分析力・解釈力**：理論と実践との架橋・往還によって問題の解決の方向を見通すことのできる力
- ② **企画力・提案力**：具体的で高度な問題解決を企画し、提案することができる力
- ③ **実践的展開力**：企画・提案した問題解決策を実践できる高度な力
- ④ **評価力**：教育活動・実践を客観的に評価したり反省的に思考するなどの力
- ⑤ **マネジメント力**：教育活動や取り組みを学校内外で組織的・協動的に展開できる力

■ 高度教育実践力に求められる資質・能力



3. 課程修了要件とその内訳

教職大学院の修了要件単位総数は46単位です。

共通科目	選択科目	学校における実習	単位総数
26単位	10単位	10単位	46単位

注1) 共通科目と選択科目には、教科教育領域の単位がそれぞれ2単位含まれており、主免の授業力向上をめざします。

注2) 現職教員選抜を受験し、「学校における実習科目」の免除を申請する場合は、入学時審査により一部免除されることがあります。

- ◎ 標準修業年限は2年とし、最長在学年限は4年とします。
- ◎ 履修の形態は入学者の勤務形態等に応じて、14条適用、長期履修制度等、柔軟な対応を取ります。

4. 「教育職員免許状」の取得について

- ◎ 「1種免許状」を取得している場合(*)は所定の単位を取得し、課程を修了すると「専修免許状」を取得できます。2025年度より、特別支援学校教諭専修免許状(5領域:視覚障害者、聴覚障害者、知的障害者、肢体不自由者、病弱者)の取得が可能となりました。

* 2025年度創設の教員免許状を持たない方を対象とした3年制プログラム(学校教員養成特別プログラムおよび養護教諭養成特別プログラム)は、入学前の資格や単位取得状況により専修免許状取得までの科目履修計画は個別指導を行います。

5. カリキュラムの特色と構成

教職大学院では、理論と実践の高度な架橋・往還・融合を通じて、教職生活全体を通じて継続的に職能発達する高度専門職業人としての教員の育成を目指しています。アクション・リサーチャーとしての教師に求められる教育実践を学ぶことができるよう学校現場や教育行政との密接な連携のもと、デマンドサイドのニーズに立脚し、研究成果を学校現場に直接還元できる特色あるカリキュラムを編成しています。

◆ 教職大学院の学びの特色

① 共に学び、共に高める

特徴の一つとして、コース制を採用するのはなく、職能発達段階の異なる学部新卒院生と現職教員院生とが同じ授業を履修し、「共に学ぶ」ということがあります。

校種や教科、これまでの経験を異にする学部新卒院生や現職教員院生が「共に学ぶ」ことで、1つの教育事象をさまざまな視点から交流し、異なる見方や考え方を共有しながら、課題の解決に向け展開されている実践に参画していくための資質や能力を、「共に高める」ことに寄与しています。こうして築いた学び合う関係性は、修了後の教職キャリアを支える貴重な人的ネットワークになっていきます。

② 学校の教育活動を一体的に捉える

学校の教育実践は、その学校の児童・生徒の実態をもとに、子供達をどのように育てたいのかという方向性、学校の教育目標を見据えて行われます。“その学校の児童・生徒にとって”意味のある教育実践を創り出していく必要があるのです。そこで、自分の専門教科に対する理解、指導力の拡充・深化だけではなく、他教科等を理解したり、学校全体の動きを見取れる視野を養うことで、学校の教育活動を一体的・総合的にとらえ、リーダーとしての高度実践的指導力を養います。

③ 教育実践のプロフェッショナルとして、自らの実践の基盤となる理論(実践知)を構築する

学校現場で経験年数を積めば、それに比例して、教師として指導力も自動的に積みあがっていくのでしょうか？

教職大学院での学びは、教育現場に向き合いながら課題を発見し、課題解決に向けて理論的な裏付けをもった実践をおこない、その経験を省察するという探究プロセスを通して、自分なりの実践理論を構築していくことを大切にしています。いわば、単なる経験主義から脱却し、「経験から学ぶ力」の育成を図り今後の教職人生を通じて「学び続ける教師」の根幹を育みます。これは新卒院生でも現職院生でも共通して必要な力です。

④ 充実した専任教員と支援体制

全10教科と、特別支援教育、養護教育、教育行政・マネジメントと併せて、専門領域を深めるための科目群および指導体制を充実させています。

研究者教員、実務家教員によるオムニバス形式やチームティーチングの授業、複数教員によるゼミ指導、さらには、実習校や現任教、教育委員会、メンター等と協働した指導体制を取り入れることにより、本質的かつ多面的・多角的な学びを支援します。

◆ カリキュラムの構成

教職大学院では、「共通科目」・「選択科目」・「学校における実習」を開設しています。すべての学生が履修する「共通科目」では、今日的教育課題や教育事象について仕組みや成り立ちを学び、「選択科目」では、キャリア段階に応じた職能発達を促し、なおかつ学校現場の今日的課題に対応できる実践的理論を修得します。そして「学校における実習」において教育現場の課題に向き合い、職能成長の段階等に応じて、『課題の発見→解決→探究、問題の分析→解決策の提案』といった取り組みを「教育実践研究」で段階的に学修できるように、カリキュラムを構成しています。

6. 教職大学院で過ごす2年間

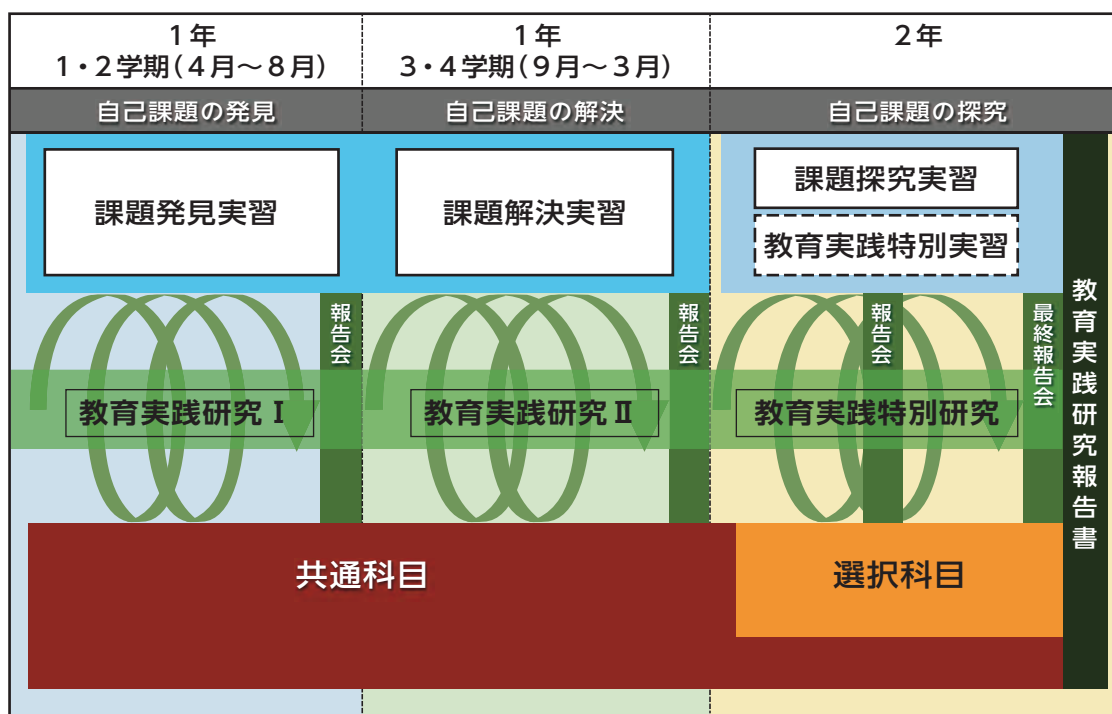
教職大学院の学びでは、教育現場に向き合いながら課題を発見し、課題解決に向けて理論的な裏付けをもった実践を行い、その経験を省察するという探究プロセスを通して、自分なりの実践理論を構築していくことを大切にしています。

● 学部新卒学生の学び

「初任期リーダー」として高度な授業力の育成を目指す

学部新卒院生は、学習指導や生徒指導などに関わる自己課題を発見・分析した上で、その解決に向けての実践研究を深めます。したがって、選択科目は、教育課程・授業力育成に関する科目群の科目を中心に履修します。

● 学部新卒学生「初任期リーダー」のコースワーク



主に学習指導や学級経営に関する
問題解決に資する教育実践力の高度化

◆ 修了生に聞きました！ —— 桂木 瑞月 (小学校・理科、他大学教育学部出身)

Q. ここでの学びを通して、自分の中で変化したことは？

A. 「理論と実践の往還」を繰り返す中で、子ども理解の深まりを実感しています。大学院での深い省察を経て、目の前の事象への対処に留まらず、子どもの思考プロセスや背景にある課題にまで意識が向くようになりました。また、学部卒や現職といった立場、さらに教科や校種の枠をも超えて院生同士で授業開発に取り組む経験は、多角的な視点から教育活動を捉える広い視野を養う貴重な機会となり、現場へ向かう確かな自信に繋がりました。

Q. 入学を検討している方へのメッセージ

A. 「教員として自信を持って一步を踏み出したい」方に、ぜひこの門を叩いてほしいです。立場や教科、校種の垣根を越え、一人の探究者として対等に議論し、高め合える環境がここにはあります。この二年間、多様な視点を持つ仲間と教育について深く考え抜いた日々は、生涯学び続ける教員としての「土台」となり、来春から教壇に立つ私にとって大きな支えとなりました。ここでの出会いを糧に、皆さんの挑戦が実り多きものになることを願っています。

● 現職教員学生の学び

これからの未来を見据えた学校づくりを牽引する「学校リーダー」

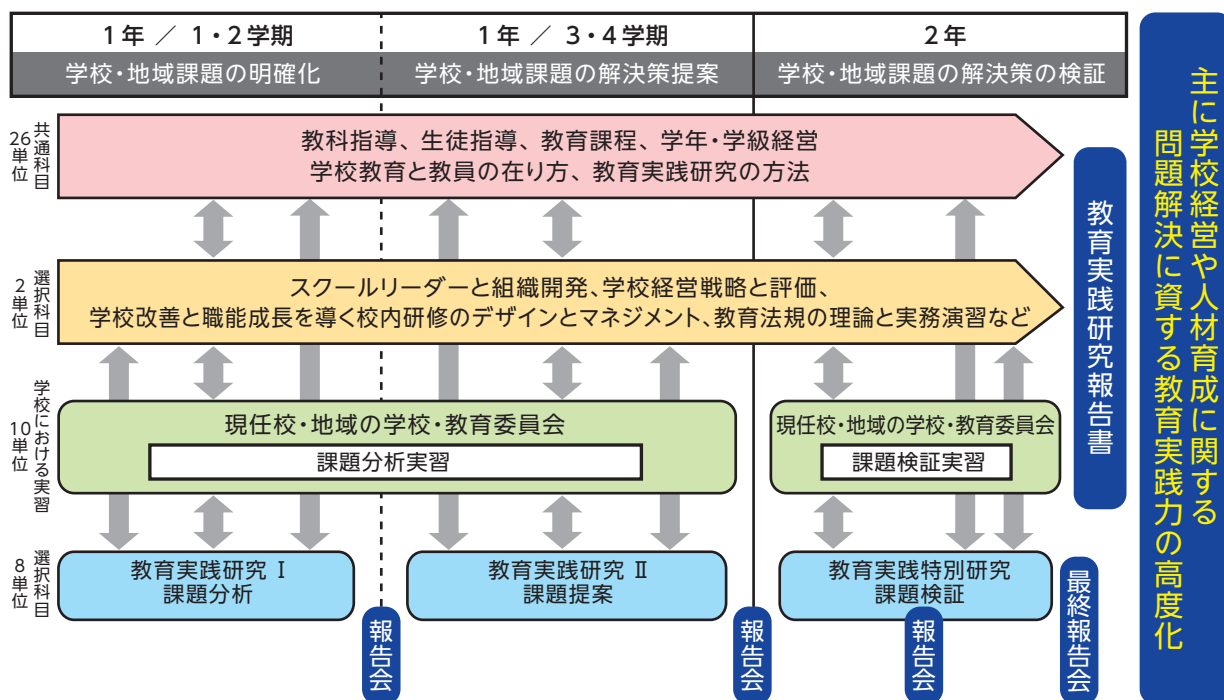
教職員集団をリードし学校改革を推進する「ミドルリーダー」を目指して

教職大学院では、学校現場の日常から少し離れた俯瞰的な視点に立ち、現任校や地域全体の教育改革という視座から、改めて学校・地域の課題を掘り起こして精選・分析し、その解決に向けて、学校や地域全体を巻き込んで実践研究を行います。

そのためには、「学校リーダー」として、戦略的なビジョンの創造・共有を舵取りし、質の高い教育の開発に向けて学習コミュニティを構築し、学校改革や地域教育の改革を推進する力も必要です。また、「ミドルリーダー」として、教科教育の指導力向上は勿論のこと、学校全体の動きを視野に入れ、教職員や保護者、地域等との協働を促すファシリテーターやコーディネーターとしての力も必要です。

そこで、選択科目では、「学校リーダー」は「学校経営戦略と評価」「教育法規の理論と実務演習」などを中心に、「ミドルリーダー」は教科経営や教師の職能成長、校内研修のマネジメントなどに関わる科目を中心に学修していきます。

● 現職教員学生「学校リーダー」のコースワーク



「学校経営戦略と評価」：学生の体験記

「学校経営に関する知識が着実に身につく、この授業を通して『学校』そのものに対するとらえ方が変わりました。例えば、SWOT分析による学校の強み・弱みの探究、カリキュラムマネジメントに基づく学校のランドデザインの設計など、学校全体の改善を目指す上で必要不可欠な視点を得ることができたと、思います。」

「教材開発と授業デザイン」：学生の体験記

「学部新卒と現職、異教科・異校種の院生がグループを組み、模擬授業を作成する授業でした。こうした混成のグループで課題を達成できるのか最初は不安でしたが、学校教育目標や研究テーマを軸として定めることで、共通の視点に立った議論ができました。各自の専門性を活かして、よりよい授業をつくりあげる、貴重な経験をすることができました。」

「教育実践研究」：学生の体験記

「学部卒院生と一緒に、研究に関する議論や実践の省察を行っています。院生各自のテーマや対象・領域は様々ですが、研究のアプローチや方法論、内容の核心的な部分での共通性を見出せることがあり、そこから新たな知識や気づきが得られるため、とても刺激的で面白いなと感じています。」

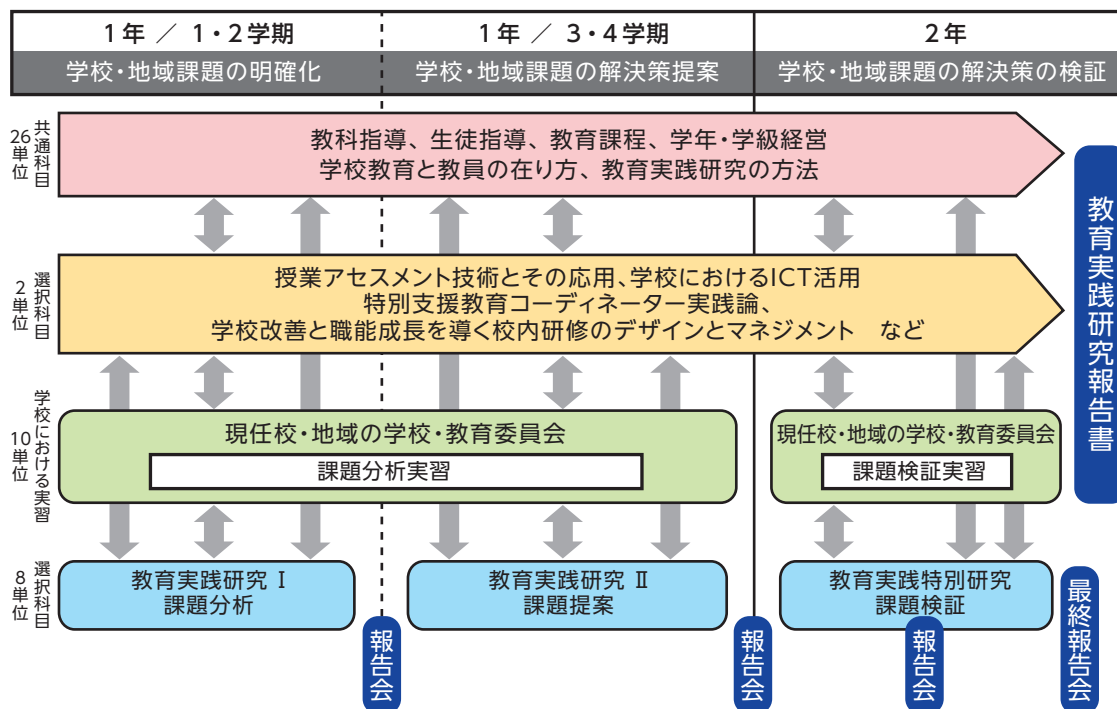
「国語に関しては、講義を聴き自分が思っていたことを、ゼミで『国語の視点で捉えるところということかな』と自分で言語化して先生にみて頂いたりする中で教科の理解が深まったところがあると思います。」

実習：学生の体験記

「国語科でアクティブ・ラーニングを行うための示唆を得るため、教育関係機関で開催される講座の見学・聴講や、指導主事へのインタビューを行いました。現任校では、先生方と一緒に授業づくりや、研修会を担当しました。多くの方から支援と示唆をいただき、研究テーマと課題に取り組みています。」

「違う学年、教科、分掌のこと等、狭い視点で判断し切り捨てていたことが多かった自分に気づき、実習では先生方と話をしたり、色々なことを関連付けて捉えてみようということ意識してやっています。」

● 現職教員学生「ミドルリーダー」のコースワーク



◆ 修了生に聞きました！ —— 河村 陽介（玉野市立山田中学校）※令和7年度時点

Q. ここでの学びを通して、自分の中で変化したことは？

A. 何事も「問う」ようになったことです。これまでは過去の経験に頼った実践に注力していましたが、先生方や院生との交流を通して、自分が思っていた「正解」は現在・未来を踏まえると「正解」とは限らないことにハッと気付かされました。VUCAの時代では、最適解や納得解、新たな価値等を社会全体で創造していかなければなりません。そのためにも、自分や相手へ、さらには学校や地域で「問う」ことの重要性を再認識しました。ここでの学びを終えた今、過去の自分にこう問いたいです。「過去や自分の『正解』は、未来や社会の『正解』になるのか？」と…。

Q. 入学を検討している方へのメッセージ

A. 教師をはじめ、「学び続ける」ことが求められています。「学び続ける」ためには、「問い続ける」ことが重要です。教職大学院では、自分自身で「問う」ことはもちろん、専門的な立場から問いを投げ掛けてくださる先生方、そして学部新卒学生・現職教員学生の問い合える仲間がいるからこそ、学びを深められます。「問う」ことを通じて学び方・考え方の基盤を再構築してみませんか？人とのつながりをさらに広げてみませんか？この2年間は人生の転機になるでしょうし、その転機は人のため、社会のためになると確信しています。素敵なつながりを自らの手で築いてください。

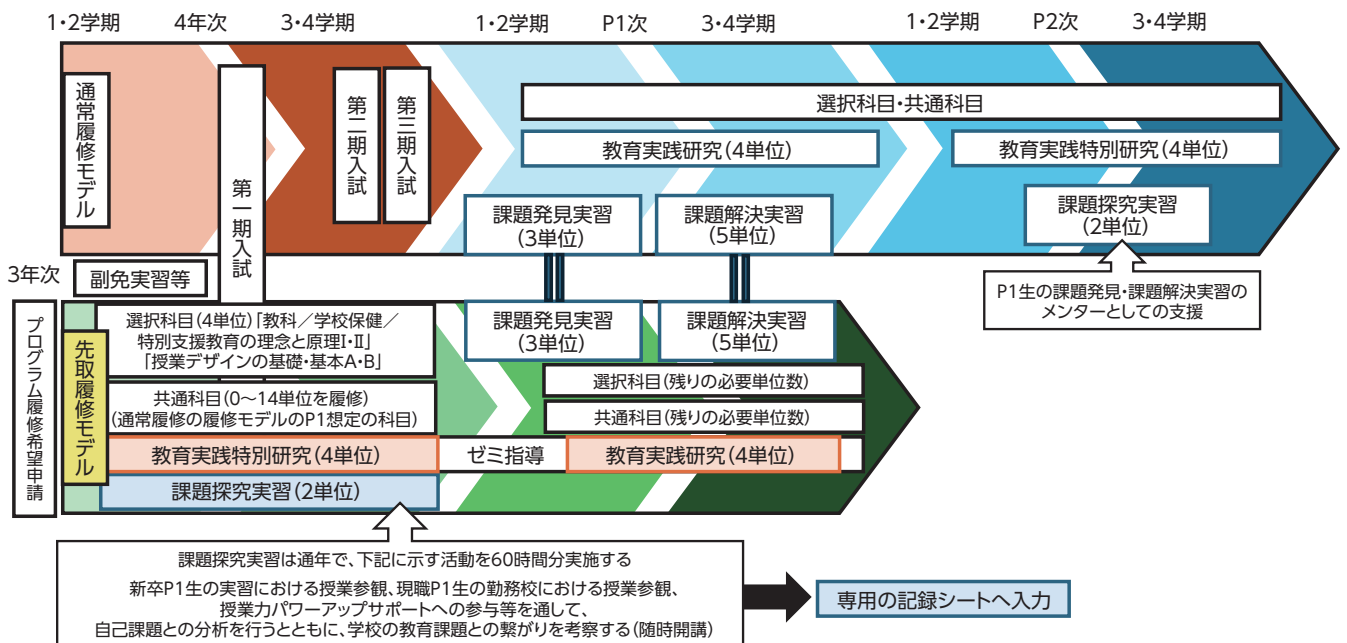
7. 現代のニーズに応えるプログラムを設置

(1) 先取履修を活用した在学年短縮プログラム(岡山大学教育学部4年次生用)

教職大学院においては、単位修得時における大学院入学資格の有無に関わらず、教職大学院入学前に大学院において修得した単位数等を勘案して在学年を短縮することが可能となっています(文部科学省より「専門職大学院設置基準の一部を改正する省令」令和5年6月15日公布)。

岡山大学教育学部4年次生の内部進学を視野に入れている方にむけた、学部卒業後1年での修了を可能にするプログラムです。学部3年次に申請する必要があります。

● 先取履修を活用した在学年短縮プログラムのコースワーク



(2) 教員免許状を持たない方を対象とした3年制(*)の学校教員養成特別プログラム・養護教諭養成特別プログラム

学校教員養成特別プログラムは、学校や地域が抱える教育課題を発見し、分析、改善するリーダー的な教員となる資質・能力の育成と高度化を目指しています。教職大学院を修了することにより、小学校教諭及び中学校教諭の専修免許状を取得することが可能となります。

養護教諭養成特別プログラムは、学校保健経営の専門家として学校・地域のリーダーとなる養護教諭養成の高度化を目的としています。教職大学院を修了することにより、養護教諭専修免許状を取得することが可能となります。

出願の条件として事前相談を受ける必要があります。

*入学前に取得している資格や修得している科目等の状況によって、3年を超えた就学が必要な場合があります。

8. 最終成果報告書の研究テーマ例

● 学部新卒学生

教科教育領域を中心にして、生徒指導や学級経営、特別支援教育など幅広いテーマを追究し、教育の専門家としての知恵を深めます。

- ・小学校における数理科学的思決定の過程を重視した授業実践
- ・発達段階に応じた生活習慣における自己管理能力の育成—養護教諭として小学生に向けた保健教育の実践—
- ・自然災害における避難行動の思決定力を育む小学校理科授業の開発
- ・児童の社会情動的スキルの育成を目指す心の健康教育の実践
- ・全校を対象とした安全教育の実践—運動会開催月の熱中症予防に着目して—
- ・児童の「わからない」に着目した小学校社会科授業開発—社会認識の深化・拡大をめざして—
- ・学級適応感の向上を目指したSSTの実践—他者受容の育成を通した一次予防的アプローチ—
- ・けがに対する危険回避能力の育成を目指した教材開発
- ・中学校社会科における歴史的な見方・考え方を働かせる学習指導
- ・数学的に説明する力の育成を目指した授業デザインと実践—生徒の説明の精緻化を促す精緻的質問を活用して—
- ・中等教育段階の国語科における説明的文章の批判的読み
- ・中学校音楽科「歌唱分野」における授業の実践的研究—音程感覚の改善、豊かな情操をめざして—
- ・技能差のあるクラスにおける協働的な学びについて
- ・環境配慮行動の促進に着目した中学校理科教育に関する一考察—人と自然とのつながりに関して—
- ・SSIを取り扱う中学校理科授業における指導法の検討—思決定プロセスに着目して—
- ・プラスチックの利活用を題材とした中学校理科の授業開発
- ・中学校社会科においてどのようにすれば『切実さ』を実感させることが出来るのか—学習意欲の向上を目指す授業の検討—
- ・中学校特別支援学級における社会科思決定学習はいかにして構成するべきか—複数の視点で考えるための授業方略を中心にして—
- ・中学校数学科における主体的・対話的な学びを促す授業デザイン
- ・高等学校数学における日常的事象と数学的問題解決の相互構成過程—記号論的連鎖の入れ子型モデルを通して—
- ・批判的思考を育成する高校数学の授業デザインとその実践—生徒による問題設定に着目して—
- ・数学的コミュニケーションに着目した授業デザインとその実践—日常事象における数学的活動を目指して—
- ・高等学校における古文の授業開発—現代語訳のその先を求めて—

● 現職教員学生

小・中・高校、特別支援学校、また、教諭や養護教諭、管理職など、学校現場のさまざまな立場に立つ者が、学校の組織づくりやマネジメントを中心にして、学校づくりの基礎・基本と実践を軸にした省察を行いつつ、新しい基礎理論の構築を目指します。

- ・生徒の英語での発信力強化のための英語教員指導力向上
- ・学年団による若手教員へのOJT について—小学校の教科担任制による実践を通して—
- ・対話を文化として根づかせる学校改善の試み—校内研究による実践と省察の往還—
- ・算数の授業改善を通した教師の職能成長と組織づくり
- ・知的障害高等支援学校におけるSWPBSを用いた指導・支援の有効性について
- ・目指す子供像の実現に向けた体育授業改善の過程
- ・言葉への自覚を促す「振り返り活動」のあり方
- ・児童の人間関係形成力の向上を図る特別活動の教育実践的研究—統合学校間の連携を通して—
- ・中学校における「エージェンシー」育成に向けたキャリア教育の協働開発
- ・学校の組織性を高めるマネジメントの実践的考察—授業づくりを基盤とする協働的な組織マネジメントによる学校改善—





中間報告会でのポスター発表。1年次と2年次で各2回の報告会を行います。院生たちは自分たちの実習校での実践内容を生かした研究成果を発表します。



通常の授業や合同省察会の中でも議論をするいろいろな場面が用意されています。互いの考えを深め合う貴重な機会となります。

9. 教職大学院進学の特典

● 学部新卒学生

◆ 名簿登載期間の2年延長

学部4年次に教員採用試験に合格した人が教職大学院に進学する場合、採用候補者名簿への登載期間が2年間延長される自治体もあります(例:岡山県、岡山市)。先取履修を活用した在学年限短縮プログラムは1年延長されます。これは学部卒業後すぐに教員にならずに教職大学院で学ぶことの意義が評価されているからです。

◆ 教員採用試験の

一部試験免除・特別選考/初任者研修の一部免除

自治体によっては、教員採用試験において教職大学院生のみを対象とする選抜をおこなっているところや、教職大学院修了者への初任者研修が一部免除されることもあります。

◆ 教員採用試験の対策

教員採用試験は教職大学院生としての価値観を発揮する重要な関門なので、教員が特に種々の指導をおこなっています。

◆ 日本学生支援機構の奨学金返還免除

正規教員になる方には、教職大学院在籍時に貸与を受けた日本学生支援機構の第一種奨学金返還免除制度(教員免除)があります。

● 現職教員学生

◆ 岡山大学教職大学院ラーニングポイント制

岡山大学の教職大学院では、現職教員を対象とする研修講座やセミナー等での学修を教職大学院の授業科目の履修とみなして単位を付与する制度を設けています。これにより、教職大学院を1年で修了することも可能となります。

● 学部新卒学生+現職教員学生

◆ 博士課程への進学

教職大学院を修了した後に、博士課程に進学することができます。

◆ 修了後も続くネットワーク

教職大学院にはさまざまな学修歴・教職経験の学生が、また、学校長や教育委員会等での経験を有する実務家教員、教科教育や学校に関する専門的知見を有する研究者教員がいます。授業や院生室での「学び合い」や「関わり合い」を通して、修了後も続く貴重なネットワークがつけられます。

◆ 「学び続ける教師」の根幹

教師には、教職生活を通じて自らの資質能力の向上に取り組むセルフ・マネジメント力が必要です。教職大学院での学びを通して、目の前にある課題にとどまらず学校の教育活動を総合的に捉えたときに浮かび上がる本質的な課題を発見し、その解決に取り組むための資質能力を身につけることができます。

10. 修了生の進路状況(新卒院生のみ)

(入学年度)	小学校	中学校	高校	中学・高校	特別支援	その他
令和3年度	10	1	4	0	0	4
令和4年度	6	9	4	1	0	2
令和5年度	5	8	7	0	0	2

修士課程 教育科学専攻

教育科学専攻の概要

<https://edu.okayama-u.ac.jp/~kyoukagaku/wordpress/>

↑ 詳しくはここをクリック



1. 教育上の理念、目的

修士課程は、教育に関する様々な事象を教育科学として開拓的に広く捉え、そこに見いだされる課題を実証的・体系的に教授研究し、教育科学の発展に資するとともに、豊かな学識と高度な課題解決能力を備えた人材を養成することを目的としています。

2. 養成する人材像と課題解決の資質能力

修士課程には、二つのプログラムがあります。それぞれの学位プログラムでは、次のような人材を養成します。

【教育学学位プログラム】

○養成する人材像

教育ならびに関連諸領域に関する深い専門的知識とGIGAスクールやICT環境に関する汎用的な知識を持ち、教育に関する高度な知識と教育実践力をもとに、地域社会・国際社会に存在する様々な課題を科学的観点から批判的に捉え直し、対応可能な解決案を立案したり新たな価値創造のために積極的に行動するなど、教育専門力を活かして国際的に活躍する先駆者を養成します。

【教育データサイエンス学位プログラム】

○養成する人材像

教育とデータサイエンス、ならびに関連諸領域に関する深い専門知識をもとに、高度な課題解決能力とトランスファラブルな力を用いて、地域社会・国際社会に存在する様々な課題を科学的観点から批判的に捉え直し、データサイエンスをベースにした最適解や新たな価値創造に係る有益な知の創出をするなど、専門的な教育データサイエンス力を活かして社会構造全体を俯瞰し、デジタル社会を積極的に牽引できる人材を養成します。

3. 修了要件とその内訳

修士課程の修了要件単位総数は次のとおりで、かつ、学位論文の審査及び最終試験に合格することが修了要件です。

教育学学位プログラム

研究科共通科目	大学院共通科目	プログラム専門科目		大学院共通科目 (課題研究)	計
		課題解決型 科目	講義・演習 科目		
1単位	3単位	8単位	18単位	4単位	34単位

教育データサイエンス学位プログラム

研究科共通科目	大学院共通科目	プログラム専門科目		大学院共通科目 (課題研究)	計
		教育専門科目	教育データ サイエンス科目		
1単位	3単位	13単位	17単位	4単位	38単位

注) 大学院設置基準第14条を適用する現職教員等における授業科目(課題研究を除く)の履修方法については、研究科共通科目、大学院共通科目及びプログラム専門科目の科目区分にかかわらず、次の単位を履修することとします。

・教育学学位プログラム: 30単位

・教育データサイエンス学位プログラム: 34単位

◎ 標準修業年限は2年とし、最長在学年限は4年とします。

◎ 履修の形態は入学者の勤務形態等に応じて、14条適用、長期履修制度等、柔軟な対応を採ります。

4. 「教育職員免許状」の取得について

◎ 現在、1種免許状を所有していれば、必要な単位を修得することで、専修免許状を取得することもできます。

ただし、「特別支援学校教諭専修免許状」は、取得できません。基礎免許のみ専修免許状を取得できます。

◎ 学部の授業を科目等履修生として履修することで、新規に免許を取得することも可能です。

5. 教育課程及び、カリキュラムの特色と構成

◆ 教育課程の特色

修士課程(教育科学専攻)は、学校教育以外でも教育が広く人と社会を支えていることを重視し、教育の新しい価値を提供し、世の中を支える教育科学の可能性を追究することを目指し、2つの学位プログラムで構成されています。「教育学学位プログラム」は、修士論文の研究とプロジェクト基盤学修(Project-Based Learning: PBL)を二つの柱として学修できるよう構成されています。「教育データサイエンス学位プログラム」は、人間、社会、文化に関わる教育データサイエンスを学修しながら、修士論文研究へと向かうよう構成されています。

◆ 学位プログラムのカリキュラム構造

2年間の学修・研究の流れ

教育学学位プログラムと教育データサイエンス学位プログラムのカリキュラムをそれぞれ図1と図2に示します。

◎教育学学位プログラムのカリキュラム構造

2年間の学修・研究の流れ

授業は、図1のように研究科共通科目、大学院共通科目、プログラム専門科目(課題解決型科目)、プログラム専門科目(講義・演習科目)から構成されています。

2年間の学修では、教育科学PBLと修士論文研究が二本柱になっています。PBLは専門の異なる大学院生が協働でアクティブに取り組んでおり、1年次末に報告会が設定されています。修士論文研究は各自の専門性を深く探究し、正副指導教員を中心に、多様な教員の指導を受けながら2年間でを行い、2年次末に審査と発表会が設定されています。

教育学学位プログラムの大きな特徴は**PBL***による学修です。

※ PBL (Project-Based Learning)

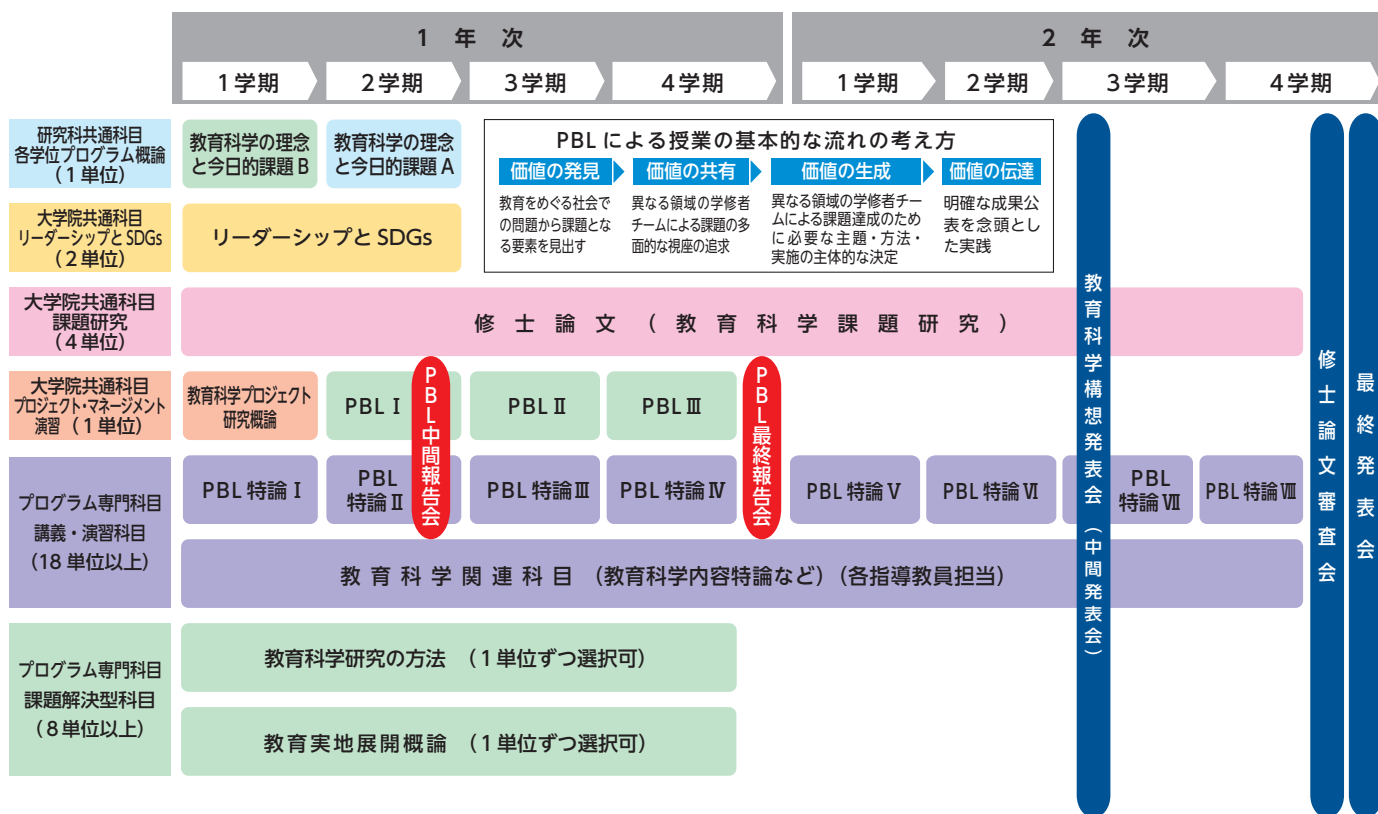
学問の体系性を踏まえつつも実践性を重んじたアクティブ・ラーニングであり、学習者自身が主体的に課題を設定し、その解決に向けた実際の取組に携わりながら、社会との関わり合いの中で学問諸領域の専門的な知識・技術や未知の状況に適切に対応できる思考力・判断力・表現力等の学びに向かう力を身につける上で効果的な課題解決型学習。

◆ PBLの目的

教育科学専攻のPBLでは、教育科学を活かして、大学院生が主体的に社会に存在する課題を見出してその解決を目指す営みを通じて学修します。ここでの「社会」は、学校内外を含む地域社会、発展途上国を含む国際社会、大学教育、企業、行政など多方面の場を想定しています。教育科学の知識や方法を修得し、実践的課題にそれらを応用して課題の解決に取り組むことができるように以下の4点を目的としています。

- ① 教育科学やチームプロジェクトに取り組むために必要な基礎的理論を修得する。
- ② 修得した理論をふまえ主体的に課題を設定して教育科学プロジェクトを遂行する力を修得する。
- ③ 今日的教育課題に関わる課題に取り組むため、最新の研究成果や社会情勢を理解する。
- ④ 学校と地域社会との連携が重要となるこれからの時代を見据え、修得した理論や手法を社会の課題解決のために応用できる。





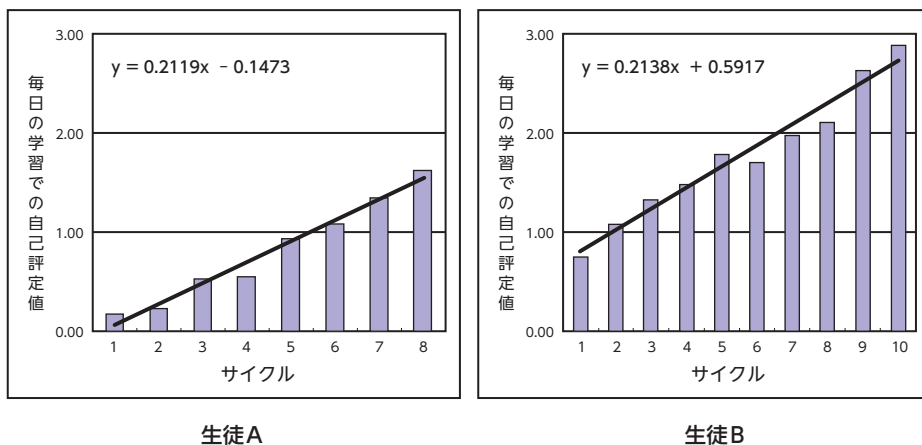
■ 図1 教育学学位プログラムのカリキュラム 2年間の学修・研究の流れ

◎教育データサイエンス学位プログラムのカリキュラム構造 2年間の学修・研究の流れ

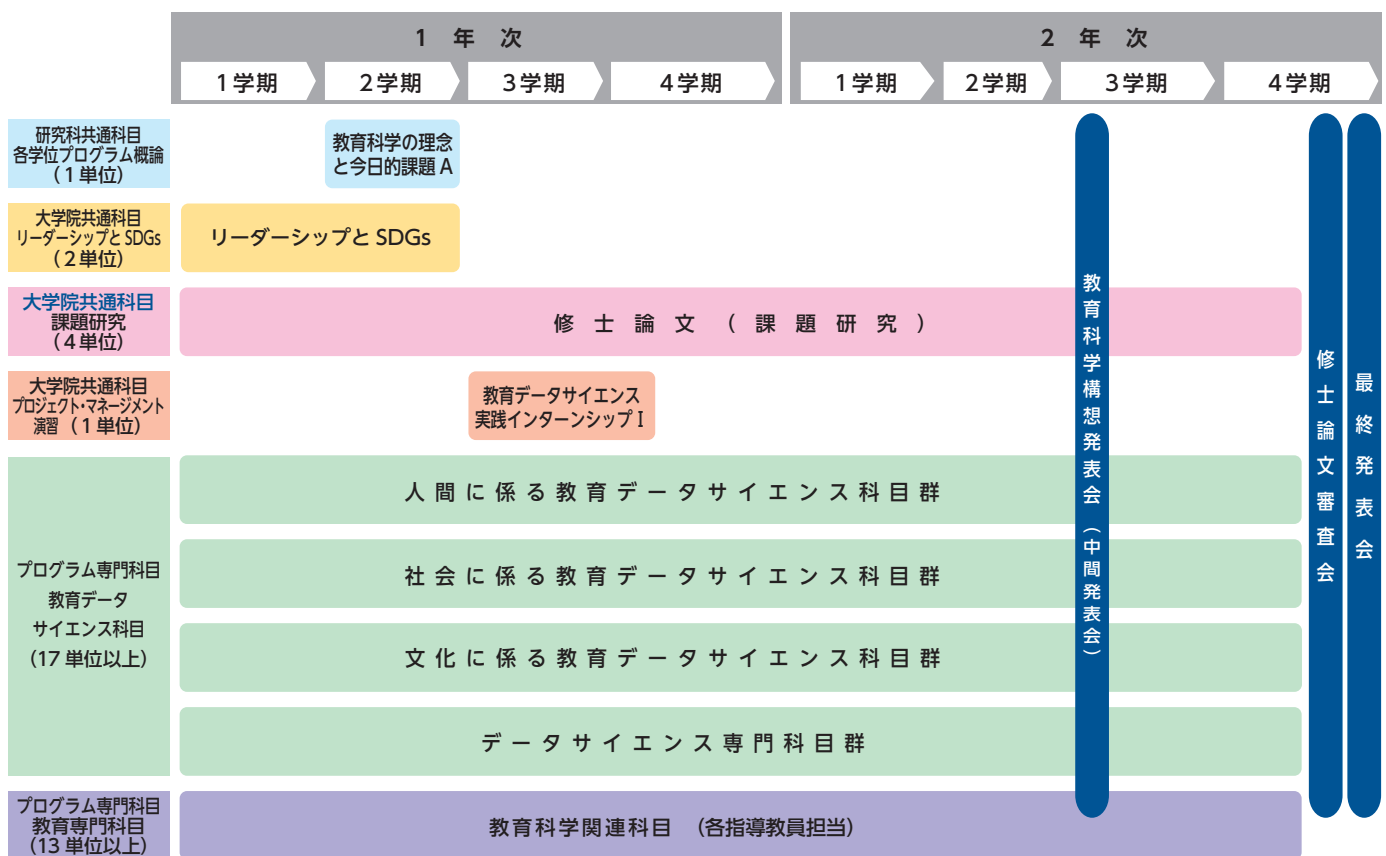
当プログラムでは、教育データサイエンス科目の学修と修士論文研究が二本柱になっています。前者では、AIの活用やプログラミング、データ解析等の科目群の他に、人・社会・文化の3分野ごとに、「教育」と「データサイエンス」の融合の具体を学修します。加えて企業などと連携する実践型の教育データサイエンス実践インターンシップに参加します。修士論文研究は、データサイエンスの知識とスキルを各自で選択した専門性に即して教育との融合について深く探究します。

※文理融合や教育とデータサイエンスの融合が注目されているのはなぜでしょう？

近年、学習者の詳細で大量の反応データ(ビッグデータ)が集約できる環境が生まれました。しかし、ビッグデータから有意義な知見を見出すためには、データサイエンスの知識とスキルだけでは難しいことがわかってきました。例えば、子どもたちは日々漢字や英単語の学習をしていますが、その成果はこれまで見えませんでした。意外に思われるかもしれませんが、「やればできるようになる」ことを証明する科学的根拠はなかったのです。その理由は、人間の記憶能力や発達段階、クラスや集団の影響が想像以上に大きいからです。つまり、行動データを扱うためには、「人」の特徴や本質に関する心理学の知識とスキルが必須なのです。それを踏まえ新たな技術を活用することで、現在、図3のように学習者一人ひとりの成績の上昇を可視化し、フィードバックできるようになっています。ちなみに、漢字が読めずあきらめてしまったような小学生も、図のように成績は確実に上がります。それをフィードバックすることで意欲を上げることが保証できるようになりました。見えなかった事実が見えるようになることで教育は大きく変わっていくはずです。



■ 図3 教育ビッグデータの解析で見えてきた3週間にわたる英単語学習の効果の積み重ね (1日10分の学習に対して成績が上がる様子を2名の高校生へフィードバックしたものの)



■ 図2 教育データサイエンス学位プログラムのカリキュラム 2年間の学修・研究の流れ

6. 在校生へのインタビュー & 修了生の声

井筒 なぎさ

IZUTSU Nagisa

2025年4月 修士課程入学



Q:岡山大学大学院に入られる前は何をされてましたか？

息子が6歳のときに家族でオーストラリアに移住し、約16年間、主婦として子育てに専念してきました。多様な文化や価値観の中で、子どもが困難を乗り越え成長していく姿を間近で見ると、教育の在り方や人の強さについて深く考えるようになりました。この時間は、私にとって多くの学びに満ちた貴重な経験だったと感じています。

Q:どうして岡山大学教育科学専攻を選ばれたのですか？

子育てや教育の経験を振り返る中で、私自身の歩みや考え方にどのような意味があったのかを問い直したいと思うようになりました。そして、もしその経験に価値があるのなら、それを社会の中でどのように活かせるのかを改めて学び直したいと考え、進学を決めました。岡山大学教育科学専攻では、世代や立場を超えて学び合うPBLといった実践が行われており、自分がこれから挑戦したい方向性と重なっていると感じました。こうした環境の中でなら、自分自身の問いにじっくりと向き合えると思いました。

Q:岡山大学修了後、将来のキャリアは？

将来的には、アートを通じて、子どもから大人まで一人ひとりが自分らしさを発見し、自分のペースで表現しながら生きていけるような場づくりに関わっていきたく考えています。アートには、時に人生を変えるほどの力があると私は信じています。だからこそ、学校教育の現場にとどまらず、地域や福祉の分野とも連携しながら、アートの力で人と人がつながり、お互いを理解し合えるような関係性を育てていけたら願っています。また、もし美術教師として教育に携わる機会があれば、子どもたちが大人になった時、ふと思い出して心が少し温まるような、そんな美術の授業を届けられたらと思っています。

Q:最後に、一言、お願いします。

最後に、こんなシェイクスピアの言葉があります。「この世は舞台、人はみな役者」。人生という舞台の上で、私もまた新たな場面に立とうとしています。役を与えられるのを待つのではなく、自分自身で物語を紡ぎ、自分なりの人生を創り出していきたいと考えています。そして、年齢や立場に関係なく、「いつからでも挑戦できる」と思える社会を、自らの生き方を通して体現していけたらと思っています。誰かの心にそっと火を灯し、「私も何か始めてみようかな」と感じてもらえる、そんなきっかけになれば嬉しいです。

有田 翔

ARITA Sho

2023年4月 修士課程入学

2025年3月 修了



Q:岡山大学教育科学専攻に入られた理由(きっかけ)は何ですか？

岡山大学の学部生時代の学びのみで社会に出ると考えた際、まだまだ不十分であり、より学びを深め自分のものにしてから実際の現場に出た方がもっと良い保育を行うことが出来ると考えたため、教育科学専攻への進学を決めました。

Q:教育科学専攻での日々はいかがでしたか？

自分の決めたテーマについて研究を行っていくうちに、それまで自分の知識が足りず、どのように行うのか、どのように決定するのかなどが分からなかったことについて知ることができ、それらに対する漠然とした不安を解消することが出来ました。

Q:教育科学専攻での学びは、今のお仕事に役立っていますか？

教育科学専攻に進み、研究に取り組んだことで、得た知識はもちろん、授業での先生方の話を通して得た知識も様々な物事を考える際の基準として用いることができたり、物事を見る際の視点としても活用することが出来ています。

Q:教育科学専攻への進学を考えている方へ、一言、お願いします。

自分の知りたいこと、興味のあることについて深く学ぶことが出来たり、学部生のころには学ぶことが出来なかったことを学べたり、大学院に進学したことでできたことが様々にあります。まだまだ勉強して学びたいという気持ちが強いのであれば、大学院への進学をお勧めします。

7. 2025年度 / PBLチームによるプロジェクト内容

1. 多援開泰チーム
「日本語を母語とする児童と日本語を母語としない児童の交流」
2. De Kitaraチーム
「『好き』から始める探求学習の実践」
3. 体験せにゃあ大変じゃチーム
「体験型防災施設における学習支援資料の導入と防災意識の変容」
4. マナビセーフチーム
「体験型防災イベントを通じた防災行動形成に関する実践的研究」
5. 岡大プレイフル・ベースチーム
「つながりを育む環境デザインの探求」
6. 子どもアンテナ図鑑チーム
「自然に対する興味関心のカテゴリ分析」
7. チーム志塾チーム
「不登校の認識変容に関する研究」

8. 2025年度 修士論文

第7期生の2年間にわたる教育科学の学習成果として
修士論文の要旨を右の報告書に掲載しています。
多様な専門分野が集まる教育科学専攻らしい
多様な研究に取り組んだ様子がわかります。

報告書には、
2025年度の各PBLチームによるプロジェクトの概要も掲載しています。



● PBLチームによるプロジェクトや修士論文の要旨はQRコードからご覧いただけます。

<https://edu.okayama-u.ac.jp/~kyoukagaku/wordpress/do/>



9. 修了生の主な進路先

● 企業

(株)ベネッセコーポレーション、(株)NTTドコモ、ルイ・ヴィトン・ジャパン(株)、ヤマハ(株)、(株)スタッフサービス、(株)ウィル、(株)イングリウッド、Q-Tech(中国)、上海農商銀行(中国)、中国体育報業有限公司(中国)、奥海科技股份有限公司(中国)、中央储备粮有限公司(中国)

● 大学・研究機関

ノートルダム清心女子大学、環太平洋大学、岡山理科大学
 進学:岡山大学大学院社会文化科学研究科、兵庫教育大学大学院連合学校教育学研究科

● 教育機関(大学以外)

岡山県立岡山城東高等学校、岡山県立瀬戸高等学校、川崎医科大学附属高等学校、京都府立山城高等学校、山口県立柳井高等学校、賢明女子学院中学・高等学校、西条市立東予東中学校、新見市立新美第一中学校、倉敷市立第二福田小学校、坂出市立坂出小学校、奈良市立辰市小学校、三宅町立三宅幼稚園、女の都こども園、神戸市立灘さくら支援学校

10. 修士課程 教育科学専攻への要望、期待 (要望書等の抜粋)

株式会社 山陽新聞社

岡山大学大学院教育学研究科が進められている改組につきましては、社会が抱える様々な課題に教育を通じて関わることのできる高度な問題解決力を有する人材育成を目指すものと認識しております。現在、複雑化・多様化している学校教育に関する専門知識を持つだけでなく、地域社会への強い関心と様々な課題に対応できる資質と能力を有した人材は、多くの企業にとって求められる人材であるといえます。

岡山大学大学院教育学研究科修士課程が予定される教育科学プロジェクトによる人材育成は、地域が求める人材像と合致しており、双方に大きなメリットとなるばかりではなく地方創生の観点からも、改組を早期に推進するとともにさらに連携を強化していただくよう要望いたします。

公益財団法人 福武教育文化振興財団

予定される教育科学プロジェクトによる人材育成は、まさに地域社会や子ども公共性を有する組織・団体が求める人材像と合致しており、双方に大きなメリットとなるばかりではなく、教育・文化を通じた地域創生の観点からも、大変有益なものと認識しております。

つきましては、改組を早期に推進するとともにさらに連携を強化していただくよう要望いたします。

一般社団法人 カンコー教育ソリューション研究協議会

カンコー教育ソリューション研究協議会は、学校とともに夢と学びを育み、学校のパートナーとして教育現場の課題解決をサポートすることを理念として事業を推進しているところです。

岡山大学大学院教育学研究科修士課程が予定される教育科学プロジェクトは、まさに私どもが目指す事業理念と合致しており、双方に大きなメリットとなるばかりではなく、教育を通じた地域創生の観点からも、改組及び連携を早期に推進していただくよう要望いたします。

(特非) 日本放課後児童指導員協会

放課後児童健全育成事業(放課後児童クラブ)の指導員が高度な専門性を修得できるプログラムや講座等を岡山大学大学院教育学研究科に設けていただくことを希望いたします。どうぞよろしくお願いいたします。

全国公立小中学校事務職員研究会

一定の経験年数を有する事務職員には、校長の学校経営を理解し、適切に支えていく役割が期待されることから、大学レベルの高度な研修を受ける機会が必要であると考えます。

つきましては、事務職員が教育に関する学修を主体的・自主的に進めていくことのできる教育内容を有するプログラム等を岡山大学大学院教育学研究科に設けていただくことを希望いたします。

